

令和6年4月1日

令和6年度 学校経営方針

小金井市立本町小学校

校長 佐藤 歩

1 はじめに

学校・保護者・地域が、本校の教育目標を共有し、連携・協働しながらその実現に向けて全力で楽しく取り組む。今年度の重点課題は、次の4点である。

- (1) 児童のよさを多面的な視点から見出し、認め、褒め、励ます指導の徹底
- (2) 児童の「主体的」な活動を重視した授業改革
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着
- (4) コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校・保護者・地域の連携・協働の推進

2 学校の教育目標

心身共に健康で、旺盛な好奇心と寛容の心を持ち、多様な人と協働的に関わりながら、先行き不透明な時代を明るく前向きに切り拓いていくことのできる児童の育成を図るために、次の目標を定める。

◎強い子 ○やさしい子 ○考える子 ○はたらく子

【重点目標】

強い子：しなやかで折れない心と立ち直る力を持ち、積極的に人と関わりながら主体的に課題解決できる子

3 目指す学校像

みんなが誇りに思う本町小

- (1) 学校・保護者・地域が目的を共有し、当事者意識をもってそれぞれができることを考える。
- (2) 学校・保護者・地域が、それぞれの立場を尊重しながら前向きに協力し合う。
- (3) 地域による学校支援に留まらず、学校を中心に地域が活性化するような双方向の関係を築く。

4 目指す教師像

- (1) 子供の心に寄り添い、使命感をもって根気強く指導に取り組む教師
 - 認め、褒め、励ます指導を基本とし、児童のよさを多面的な視点から見出し価値付ける。
 - 配慮を要する児童に対して、丁寧に粘り強く指導する。一人で抱え込まず、組織的に指導を積み重ねていく。
 - 統率力を発揮し、児童に対して「ならぬことはならぬ」と、はっきりと言う。特に「いじめ」に対しては、いじめを許さない断固たる姿勢で一貫する。
 - 困難から逃げない。自らの指導に至らなさがあつた場合、それを他人のせいにはしない。児童のせいにはしない。保護者のせいにはしない。
- (2) 授業で勝負するプロフェッショナルとして、研究・研修に励む教師
 - 自らの指導技術を磨く姿勢を常にもち、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革に貪欲に取り組む。
 - 同僚から学ぼうとする姿勢をもつ。また、これまで自身に付けた教育財産を積極的に同僚や若手教員に発信する。

- 他校の研究実践研修や専門機関の研修に参加し、授業力・指導力の向上に努める。
- (3) 組織、社会の一員として、自ら課題を見出し主体的に職務を遂行する教師
 - 失敗を恐れずに新しいことへのチャレンジを楽しむ。
 - 助け合う姿勢、協力的な姿勢をもつ。仕事の「隙間」をお互いがカバーしようとする。
 - 外部（保護者、地域、外部諸機関）との連携を深め、積極的に地域の教育力を活用する。
 - 教育公務員としての自覚をもち、サービスの厳正に努め、決して服務事故を起こさない。特に、体罰、不適切な指導については、「暴力、暴言は、しない、させない、許さない」という強い意志をもって指導に臨む。

5 教育目標達成のための基本方針

- (1) 「強い子（しなやかで折れない心と立ち直る力を持ち、積極的に人と関わりながら主体的に課題解決できる子）」について
 - 認め、褒め、励ます指導を基本とし、児童のよさを適切に価値付けることで自己肯定感を高める。安心して間違えたり失敗したりできる雰囲気醸成し、挑戦することを前向きに楽しめるようなしなやかで強い心を育てる。
 - 人と人との関わりを重視し、挨拶や丁寧な言葉遣い、基本的な生活習慣等についての指導徹底を図り、児童の健全育成に努める。特に、挨拶については、コミュニケーションスキルの第一歩であることを意識し、状況に応じて一言付け足す「一往復半」の挨拶ができるよう各学年による指導の一層の充実を図る。
 - 日常的な情報交換・共通理解を心掛け、教育相談体制を充実させ、全ての子供が全ての大人に相談できるよう組織的な対応に努める。また、SC、SSW、医師、子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係諸機関と連携を密にし、いじめ、問題行動、不登校、虐待、ヤングケアラー等で支援が必要な児童に対して、迅速かつ組織的に対応する。
 - 特別支援教室（ひだまり学級）の円滑な実施に努める。配慮を要する児童への指導・支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教室専門員、特別支援教育支援員、学校生活支援ボランティア、SC、SSW、関係諸機関との連携を図りながら、個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮を行い、個に応じた指導の充実を図る。
 - 不登校の早期発見・早期対応を目指し、個人指導ファイルを活用するとともに、不登校支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の活性化を図り、校内別室指導支援員、SSW、もくせい教室、教育相談所、子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係諸機関と連携しながら児童の状況に応じた不登校支援に取り組む。
 - 体力テストの結果を基に、児童の実態に即した体育の授業改善を行い、体力の向上を図る。また、オリンピック・パラリンピック教育の成果を基に、「学校2020レガシー」として、学校環境を生かしたなわとびや持久走等の体育的活動の充実、外遊びの奨励を通して、楽しみながら運動に親しむ態度を育成するとともに、食育や保健教育、がん教育をはじめとする健康教育の推進を図る。
 - 高学年における教科担任制を実施するとともに、小・中学校間での児童・生徒間及び教員間の交流を活発化し、中学校教育への円滑な接続を図る。また、スタートカリキュラムにおいて、分かりやすく学びやすい環境づくりをすることで、小一プロブレムの予防に努める。
- (2) 「やさしい子（互いの個性や存在を認め合い、温かいかわりのできる子）」について

- 子どもの権利を大切に学校づくりを目指し、小金井市子どもオンブズパーソンと連携して「子どもの権利に関する条例」に関する授業を実施するとともに、児童の声や意見を聞く姿勢の充実を図る。
 - 教育活動全体を通して、人権教育を推進する。いじめは許さないという毅然とした態度で指導にあたり、偏見や差別のない好ましい人間関係の確立に努める。
 - 道徳教育の充実を図り、互いを認め合い、温かくかかわる豊かな人間関係を培うとともに、かけがえない自他の生命を尊重する態度を育成する。
 - 答えが一つではない課題を児童自身が考え議論するような道徳科の授業を行い、道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度を育てる。
 - 年3回のアンケートやWEB－ＱＵ等を活用し、いじめの早期発見に努める。また、学校いじめ防止基本方針に基づいた適切な指導・対応ができるよう教職員の意識を高めるとともに、学校いじめ対策委員会及び生活指導部会を中心とした組織的な取組により、未然防止と早期解決を図る。
 - 都立小金井特別支援学校との交流学习、点字体験、車いす体験等を通して、共に助け合い、支え合って生きることの大切さを学ぶ機会を充実させる。
- (3)「考える子（互いの考えのよさを取り入れながら、主体的に課題解決できる子）」について
- 高学年における教科担任制を導入し、より専門性の高い教科指導を目指すとともに、繰り返し学習やスモールステップの学習、習熟度別学習や課題別学習を生かした算数少数指導、ボランティアによる個別支援等、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。(算数については、ベーシックドリルを活用し、定着度を年3回確認する。)
 - 各教科等における言語活動を充実させるとともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決型の学習や体験的な学習を積極的に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業への改善を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ICT機器を活用した授業実践及び研修を推進し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の充実を図る。また、プログラミング教育において、論理的思考力を育成し、試行錯誤しながら主体的に課題解決に取り組む態度を醸成する。
 - 児童の「主体的」な活動に視点を当てた校内研究を推進する。児童が学習内容や学習する相手、学習するペース等を選択できる複線型の授業にできるところからチャレンジしていく。
 - 管理職による授業観察に合わせて、全教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を公開し、それぞれが年1回以上授業を参観することで、授業力のさらなる向上を図る。
 - 総合的な学習の時間においては、体験的かつ探究的な学習を重視し、課題発見・解決力の育成を目指すとともに、各教科等で培った知識及び技能を生かし自己の生き方を考える態度の育成を図る。また、各学年の実態に応じて設定した年間指導計画に基づき、地域の特性を生かした活動及び教科等横断的な内容を意図的・継続的に実施する。
 - 外国語・外国語活動においては、ALTと連携し、ゲーム的な活動、ICT機器の効果的な活用（映像資料の提示、教育支援アプリの活用）等を工夫しながら、「楽しく話したくなる」授業の充実を図り、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力の育成を目指す。
 - 週1回の朝読書や年2回の読書週間の設定、長期休業中の学校図書館の開放、図書館支援員・図書ボランティアの活用による読書活動の充実を図り、読書習慣を定着させ、児童の豊かな情

操を育むとともに、柔軟な思考力・想像力を養う。

○聞くとき、話すときのルールやチャイム着席、学習用具の準備、ノートの使い方等、学習規律の徹底を図り、学習への基本的な姿勢を児童に確実に身に付けさせる。

(4) 「はたらく子（自ら仕事を見付け出し、みんなのためにやり遂げようとする子）」について

○小金井市気候非常事態宣言を受けて、社会の問題を自分事化する教育活動の充実を図る。東京学芸大学と連携した森林教育や校庭芝生を活用した環境学習等を通して、環境問題を自分事として捉え、自分にできる取組を考え実践しようとする態度を育成する。

○特別活動の全体計画、年間指導計画をもとに、キャリアパスポートを活用しながら、主として学級活動を通して、学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養う。

○話し合い活動や異年齢集団による望ましい集団活動を充実させ、互いの個性を尊重し認め合う経験をする中で、集団の一員としての生き方を学ぶとともに、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的な態度を育成する。

○各種体験活動、ボランティア活動等を通して、児童の発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観の育成及び個に応じた指導の充実を図り、児童が自らのよさを自覚し将来にわたる生き方を考えていくことができるようにする。

6 信頼される学校づくり

(1) コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会や地域学校協働本部の協力を得ながら、近隣の大学や地域の人材、施設等と連携し、児童の学習意欲・学力を高めるとともに、地域への愛着を深めることができるようにする。

(2) 学校運営協議会や保護者等による学校評価を生かした学校運営の改善・充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

(3) 学校公開や学校便り、学年便り、ホームページ等を通して、学校の情報を発信し、学校に対する保護者・地域からの一層の理解と協力を得られるようにする。

(4) 定期的な安全指導、多様な状況を想定した避難訓練、各種安全教室等を通して、安全に対する児童の意識の向上を図る。また、防災や個人情報の管理、アレルギーへの対応など、教職員の危機管理意識を高めるとともに、日常の週番による児童の見守りを確実にを行う。

(5) これからのデジタル社会をよりよく生きる力を養うデジタルシチズンシップ教育の充実を図る。

(6) 令和7年度の開校60周年行事に向けた準備を確実に進める。

7 学校の組織力の強化

(1) 「効率化・省力化」「簡素化・削減」「共有化」を視点として、会議や行事等、業務の見直しを検討し、働き方改革を一層推進する。カリキュラムマネジメントの視点も生かしながら教育内容の精選を図る。

(2) 主幹教諭・主任教諭を中心に、校内OJTを推進し、教員の資質能力を向上させ、教育活動の充実を図る。